

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2774401232		
法人名	株式会社 サニーマリーン		
事業所名	安さ1ばん・陽当り良好 みんなの家(A)		
所在地	大阪府大阪市城東区諏訪2-8-4-604		
自己評価作成日	令和3年1月4日	評価結果市町村受理日	令和3年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2774401232-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2774401232-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年2月1日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「地域に根つきみんなで作るみんなの家」を目標に、設立当初から「アットホーム」な 雰囲気作りを心掛けています。スタッフみんなで、入居者の方たちに寄り添い、目配り・気配り・心配りに配慮しています。ターミナルケアも実践しており、介護の3原則「安心・安楽・安心」に加え「尊厳」と「自立支援」を心配りがけています。コロナでなければ、毎日の散歩も継続していました。今年の七夕の皆様の願い事は「元気で長生き出来ますように」でした。皆様の願いが叶いますように！もっともっと長生き出来ますように！これからも入居者とスタッフ一同、楽しく笑いのある「みんなの家」でありたいと思います。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは、地域の中で自宅と同じように暮らしてもらいたいとの思いを込めて作られた理念を掲げ、活発に地域に出かけたり交流していましたが、新型コロナウイルス感染症流行に伴い外出できない状況の中ホーム内で楽しんでもらえるよう職員はレクリエーションやリビングやマンションの廊下を季節を感じられる飾りつけを行い利用者の笑顔に繋がっています。職員が集まる会議が難しい中でも意見を言いやすいよう配慮し、日々非常勤職員の意見を常勤職員が聞き管理者に伝え送りやケア会議の際に話し合い決定事項は申し送りノートで共有し、また個々の利用者の力を活かし穏やかに暮らせるようアセスメントもわかりやすくケアが統一できるよう努めています。また医療機関とも連携体制を整え本人や家族の思いを大切に看取り支援に取り組んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフには面接時に伝えており、何か問題があった時の対応に関しても、理念に沿った運営を意識し行っている。	地域の中で自宅と同じように暮らしてもらいたいとの思いを込めて作られたホームの理念は、採用面接時に伝えたりケア会議の際に目指す方向性として話をしながら理念が実践できるように取り組んでいます。また目につきやすい玄関に掲示し、意識して日々の支援ができるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により自粛。長年参加していた秋祭りも自粛。地域のつながりが遮断されている。	コロナ禍以前にはふれあい喫茶や神社の祭り等の地域の行事に出掛けたりフラダンス等のボランティアの来訪があり地域の方との交流を持っていました。コロナ禍では地域行事が中止になっており、収束後には再開しり自治会へも再入会も行いたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面談に来所されたご家族の方の認知症の悩みに対してアドバイス等させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告を行い、意見・アドバイスをいただいた時は、取り入れられる部分は取り入れている。	運営推進会議は2カ月に1回利用者や地域包括支援センター職員の参加の下開催し、利用者の状況や行事、勉強会、事故・ヒヤリハット事例、困難事例等の報告を行っています。地域包括支援センター職員からアドバイスを得て運営やサービスの向上に活かしています。家族には面会時に会議について伝えていきます。	家族へ運営推進会議について知ってもらえるような取り組みや新型コロナウイルス流行の収束後、家族や地域の方への案内等を行う等参加が得られるような働きかけを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	一度ホームを出て迷子になられた方がいらっしゃり、社協の迷子サポートに登録させていただき、協力関係をいただくよう取り組んでいる。	区役所の手続きやわからない事を聞く時等は郵送や電話で行うことが多くっており、生活保護の書類提出等の必要時には窓口に出向いています。感染症等の注意喚起はファックスで届き職員に周知し、アンケート依頼があり協力したり手袋等の必要物品の配給を受ける等、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠も含め、拘束のないように取り組んでいる。ケアについても拘束であるかないかも含め、普段からスタッフ間で話し合っている。	年に2回身体拘束についての研修を行い、2カ月ごとに身体拘束委員会を開き、現在は職員が集まるのが難しいので研修は資料配布をしています。職員は利用者の行動を止めるような言葉かけが無いように注意を払い、玄関は施錠していますが外に出たい様子があれば寄り添い玄関先に一緒に出る等拘束感の無いよう支援しています。またセルフチェック表を用いて対応を振り返ったこともあります。	

安さ1ばん・陽当たり良好みんなの家(A)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な暴力・暴言はもちろん、言葉かけひとつに対しても配慮し、話し合いながら虐待について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の方でお一人が後見人補佐人がついており、個々の必要性を連絡で話し合う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居いただいてからの不安・疑問が出ない様、時間をかけて説明している。入居後も少しの疑問でも随時傾聴し、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、できる限りの要望や不満などを聞くように努めている。それらの意見をスタッフに周知し、取り入れられるものは取り入れている。	利用者の様子を毎月ホーム便りや個別の手紙で家族に伝え、コロナ禍になり面会は基本的にはできない状況ですが個々の状況に応じて、電話やリモート面会、玄関先で距離をおいて面会する等工夫しています。家族からの意見は個別の要望が多い状況ですが、個々に対応したり好きなものをおやつに提供するなどサービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが随時意見を出しやすい環境を作ることに努めている。その意見が反映できる場合は反映している。	毎月会議を行っていましたが職員間で集まるのが難しく、日々の中で非常勤職員の意見を常勤職員が聞き管理者に伝え申し送り時やケア会議時に話し合い、決定事項は申し送りノートで伝えています。職員が得意なことに力を発揮できるように配慮し、管理者が業務に入ることも多くコミュニケーション図り、また職員からの申し出により個別面談を行い意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	充分に行う事は出来ていないこともあるが、把握できるように、またやりがいのある職場作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な情報の収集を行い、研修などを行っている。日常のケアを題材に普段よりスタッフともよく話し合い、ケアについて吟味している。		

安さ1ばん・陽当たり良好みんなの家(A)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークを通じての情報や意見を交換している。それを文書などで報告し、サービスの質を向上させるようにしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状態をよく理解できるようにスタッフを配置している。スタッフはみんなで情報を共有し、安心できる環境を提供している。入居前の準備段階より、最善を尽くしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と連絡を密にとれるよう意識している。少しの不安でも言っていただけのような環境を作るように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの運営環境上、経済的に困難な事もあるが、利用者に応じた一番必要だと思われることを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	みんなの家の理念に基づき運営を行っていることもあり、信頼は築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響によりご家族様のお部屋での面会は禁止をさせていただいており、テレビ電話での面会や玄関先での15分以内の面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り面会は最小限に抑えさせていただいております。みんなの家通信やお手紙などで、これまでの関係が途切れることのないよう努めております。	コロナ禍以前は友人や知人、兄弟の面会があったり、家族と自宅に帰る方もいましたが、現在は家族の面会も状況に応じた対応としています。年賀状を送ったり手紙のやり取りをする等の支援をしたり、携帯電話を持っている利用者は遠方の親戚や友人とも会話できる方もいます。	

安さ1ばん・陽当たり良好みんなの家(A)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い意味でみんなを巻き込み、家族のように接していただいている。時には口論となることもあるが、スタッフが間に入り、信頼関係を築けるよう意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方でも、遊びに来ていただいたり、家族様よりお電話やお便りで連絡をいただくこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からその方についてよく知ることを念頭に置き、その方本位のケアを意識して検討している。	入居前に自宅や病院に出向き生活歴や趣味、希望を聞き、入居申し込み後に担当ケアマネジャーからも情報を得て思いや意向の把握に繋がっています。入居後は日々の関わりの中で気付きを記録に残したり、ケア会議で把握困難な利用者の思いも本人本位に話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様・関係していたケアマネよりできる限りの情報を収集している。また本人との会話より把握に努め、スタッフで周知できるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録などで変化・思い等を把握し、何気ないことでもスタッフ間の会話により、共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その方本意のケアを意識し、より多くのスタッフの意見を聞き、考えが固執しないよう努めている。	本人や家族の思い、アセスメントの基サービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。毎月丁寧にモニタリングを行い6か月毎に見直し、見直しの際には再アセスメントと評価を行い、家族の意向を確認し往診時の情報を反映し介護計画を作成しています。アセスメントのまとめシートを作成し職員にもわかりやすくなるよう工夫しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化・身体状態・気づき・思いなど、記録媒体を基に介護計画の作成・見直しに活かしている。		

安さ1ばん・陽当たり良好みんなの家(A)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体・精神状態の変化や思いの変化などに基づき、随時見直している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に暮らしているスタッフや、近隣住民の方に情報をいただき、利用者が楽しく過ごせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は普段より大事にしている。書面・口頭にて現状報告は随時行っている。ご家族の要望や当施設の方針も伝えている。	入居時にかかりつけ医を継続できることを説明し、現在継続している方もおり往診を受けています。ホームの協力医は月に2回往診があり24時間連携で体調不良時などはクリニックや直接医師に連絡が取ることができ、指示を受けたり対応してもらっています。専門医への受診は家族の対応が基本ですが、状況によっては職員が支援しています。また必要に応じて訪問歯科による治療を受けている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師・かかりつけ医の看護師に、随時相談し助言をいただいている。訪問看護も利用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	書面を中心に、情報提供・報告を受けている。必要な情報は、電話、面会を通して随時得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居時にどのようなケアを望まれているのかを話し合っている。また日常の何気ない会話から本人の意向も聞き出し、本人の思いなども含め、かかりつけ医にも伝えている。	入居時に重度化や看取り支援についての指針に沿ってホームで支援できることを説明し同意を得ています。看取り支援の経験もあり、重度化に伴い医師から家族に説明してもらい職員や看護師も加わり話し合いの方針を決めています。家族には面会に来てもらい協力を得たり思いを確認しながら訪問看護師の訪問も受け医療と連携を図りながら看取り支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修・勉強会などで、日常より勉強している。		

安さ1ばん・陽当たり良好みんなの家(A)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方との情報交換や消防士の指導の下、対応できるように備えている。	年に2回行う消防訓練は、コロナ禍以前には消防署の立ち合いがありましたが、今年度は自主訓練の報告をしています。訓練は通報や初期消火、ペランダや非常階段付近までの避難誘導を行い、夜勤務する職員には夜間の体制について伝えていきます。水分や非常食、カセットコンロや懐中電灯等の備蓄をしています。	新型コロナウイルス感染症流行の収束後には地域との協力関係に向け自治会やマンションの方々と話し合いを持たれてははいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、普段より尊厳を大事にしている。親しき中にも礼儀ありの信条を基に、適度な緊張感を持ち対応している。	接遇マナーや認知症、個人情報保護等についての研修はコロナ禍においては資料提供にて行い、利用者を尊重した丁寧な言葉遣いに努めています。不適切な対応があれば都度管理者やリーダー、サブリーダーが注意しています。また同性介護の希望があればできる限り対応し羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の服を選んでいただく等、ご本人に選択している。自立支援を意識して業務を行うように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースや生活リズムを大切に、スタッフの都合による行動を行わないように、普段よりスタッフとともども話し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの髪形や服装など、できる限り本人に選んでいただいている。日常会話などから、本人の好みを聞けるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備段階より、野菜切り・盛り付け等利用者と一緒に行っている。手作りおやつの日には、何が食べたいかなどを聞き、一緒に作っている。	業者の栄養士が立てた献立に沿って食材が届き、ホームで食事作りを行い、利用者にも食材を切ったり盛り付け等に携わってもらっています。時には鍋料理やお好み焼きを作ったり、クリスマスに寿司を出前とるなど利用者に食事を楽んでもらっています。プリンターでピーマン等の野菜作りをしたり、ホットケーキやフルーツサンド等のおやつも手作りすることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りがいいか、バランスが良いかなどを考慮し提供している。とろみ食のとろみ具合、色など見た目にも考慮している。水分摂取量を記録し、常時摂取量を意識している。		

安さ1ばん・陽当たり良好みんなの家(A)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事利用者に応じた口腔ケアを行っている。訪問歯科を利用しており、不具合があれば指導を仰いでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の訴えを最も大切に、日々の記録・データにより、その方のタイミングに合わせて支援している。下肢筋力の低下を防ぐため、なるべくベットでのおむつ交換を避け、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を用いてパターンを把握し、仕草を観たり訴えを聞きながら個々の利用者のタイミングでトイレに行けるように支援しています。重度化しても座位が保てれば日中は二人介助で支援し、申し送り時や日々の中で支援方法や排泄用品の種類等の検討をしています。退院後はおむつの使用から紙パンツへ変更する等自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、摂取物(水分・繊維質)を意識して、自然排泄が行えるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を行わない曜日に関しても、足浴等で対応している。入浴拒否がある場合もできる限り希望に沿って実施している。	入浴は週に2回午前中を基本に支援し、希望があれば午後の時間帯に入浴してもらうこともあります。一人ずつ湯を入れ替え、個々のペースで会話を楽しみながら支援し、入浴剤の使用や好みのシャンプー等を持参する方もいます。拒否される方にはタイミングを図り声の掛け方や関わり方を工夫しながら無理のない入浴に繋げたり、清拭や足浴を行うこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時より寝具やベット・タンスなど、本人が落ちつける環境で入居していただく事により、安眠や休息しやすい環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、管理日報に記録し、変更があれば必ず周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の尊厳を大事にし、それぞれの役割を意識してもらえようケアを行っている。レクリエーションも、その方に合わせて趣向を凝らしている。		



安さ1ばん・陽当たり良好みんなの家(A)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で散歩、買い物は自粛しているが買い物などの要望があれば、スタッフが可能な限り対応している。	コロナ禍以前には毎日散歩を日課とし公園や神社に行ったり、公民館の桜まつりやふれあい喫茶に出かけていました。現在は玄関先で外気浴や気候の良い時にはお茶を飲んだり、マンションの廊下に季節行事の飾りを行い利用者と楽しむ等外気に触れる機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外部研修・勉強会などで、日常より勉強している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常で、字を書くこと、自分の自分の意思を伝えることを大切にしている。ご家族に対しても自分で電話したり、手紙を書ける方は書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁画、清潔になるよう片付けも常に行うようにしている。壁紙やクッションフロアーに関しても、利用者が居心地の良い空間になるよう定期的に張替えなど行っている。	共有空間は利用者と一緒に作成した壁絵やフラワーアレンジメントを飾り季節を感じ、3人掛けのソファ等を置き少人数の利用者で寛いで過ごせるように配慮しています。食卓では利用者同士の相性や車いすの方が重ならないよう注意しながら随時変更しています。毎日こまめな換気や掃除を行い清潔を保ち居心地良い空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやリビングにて、それぞれが親しめる空間を意識し、提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち寄り、本人が快適に過ごせるよう努めている。本人が作成したものなども居室に飾り、わが家を意識した部屋作りを行っていただいている。	入居時に使い慣れたものを持ってきてもらうように説明し、自宅からタンスや椅子、テレビ等を持参している方もおり、本人や家族と相談しながら配置しています。家族や以前の本人の写真を飾ったり、本を試算したりCDで好みの歌手の音楽を聞く方もおり、その人らしい居室となっています。毎日の掃除は可能なことに携わる利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフ間の周知によりその方が「できること」「わかること」を把握している。利用者の可能性を狭めないように、安心・安全・安楽・自立支援・尊厳を常に意識してケアを行っている。		